

草原再生では、実施事業などについて地元や現場の意見を聴き、検証・評価しながら進めていくこと、さらに様々な立場の人々と合意形成を図っていくことを重視しています。平成16年2月、2つのテーマで意見交換会を開催しました。

THEME 02

草原再生を支える都市・農村交流に向けて、意見交換が行われました

第2回「情報発信・合意形成に関する検討部会」を拡大して、一般の人を交えた意見交換会を行いました。

宮口侗逸委員（早稲田大学教育学部教授）、高橋佳也氏（阿蘇自然案内人協会会長）の基調報告に続き、地元で活動されている方々をパネラーに招いた2つの交流分科会、各分科会での成果をまとめる全体会、懇親会が行われました。



委員と会場の参加者との間で活発に意見が交わられました

都市・農村交流の意味が確認される

阿蘇フォーラムまるごとフェスタや野焼き支援ボランティア、ファームステイなど地元で都市農村交流活動に取り組んでいる方からは、交流により新しい出会いが生まれた、若手スターが誕生した、地元の良さを再発見や認識ができた、などの効果が報告されました。宮口委員からは、草原など阿蘇固有の価値を活かした交流と、そこで生まれた「縁」から新しい仕事を創り出すことが地域の再生につながるとの指摘がありました。



インターネットから生中継!

阿蘇テレワークセンターの協力により本会の様子がインターネットで配信されました

都市・農村交流を進めるために

今後も都市・農村交流を進めていくために、あらゆる立場や分野の人との交流の促進、参加意欲をもつ人々へ向けた適切な情報発信、地元の連携や支援の強化、幼い頃から農村のよさを体験するための教育、牧野利用のルール・条件づくり、古くからある知恵の見直し、といったアイデアや意見が委員や参加者から出されました。

交流のきっかけづくりのひとつでもある牧野利用については、観光客のマナーの悪さから慎重な意見がある一方で、地域内外から推進を望む意見も多く聞かれました。



昼食を兼ねた懇親会は地元づくし!

レストラン燦による地元食材をふんだんに使ったあか牛料理に舌鼓をうちながら、阿蘇で活動している人たちの活動PRに聞き入りました

開催日時：平成16年2月25日（水）
9:30～14:00
開催場所：ホテルサンクラウン大阿蘇
主なテーマ：都市・農村交流の促進と草原再生に向けた情報発信
都市・農村交流への牧野の活用とルールづくり
参加者：検討部会委員、牧野組合員、ボランティアをはじめ地域内外から約60名

インタビュー 草原再生への期待



村上ミツ子氏

阿蘇町在住、阿蘇町産産物加工部会長、阿蘇町食と農を考える女性の会会長

「阿蘇町食と農を考える女性の会」の会員が、それぞれの立場で関わり運営している「レストラン燦」は、開業時より地産地消にこだわり営業してきました。阿蘇には素晴らしい景色があり、空気がよく、そういう土地で穫れた食材を使って防れる人々に安全・安心な食事を提供していくこと、これこそが私たちの使命だと考えています。畜産農家が減り放牧牛も減少していますが、

レストラン燦でも阿蘇のあか牛を多くの方に味わっていただき、草原保全の一端を担っていきたくと思っています。また、阿蘇の草原の草を肥料に使ったトマトやキュウリは味が良いと評判です。野草をもっと見直し、利用促進していけば安全な農産物の生産、ひいては草原保全につながると思っています。